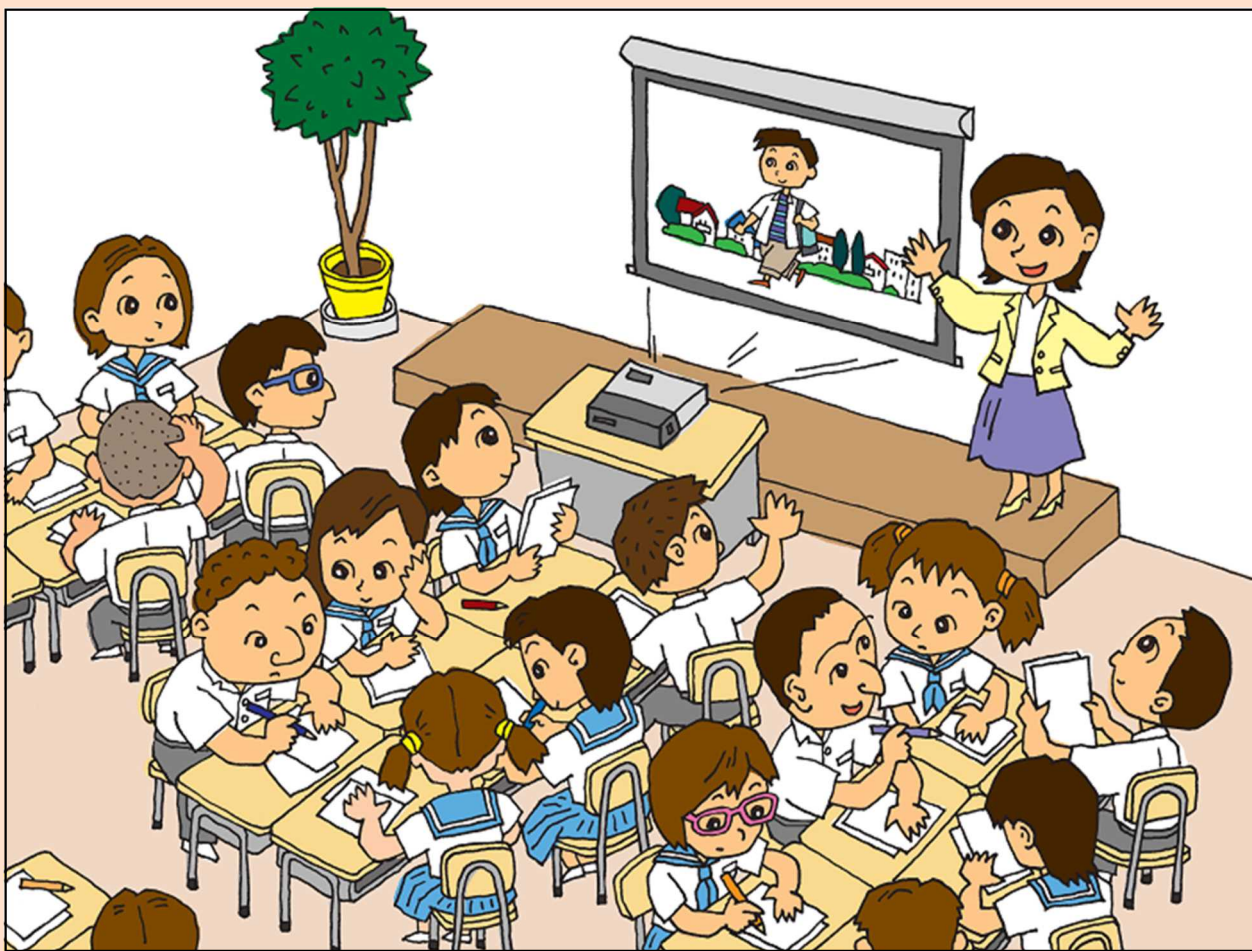




『防災』について 考えてみよう！！ (大雨編)

2019年5月
福岡管区気象台

はじめに

『防災』と聞くとどうしても難しいイメージが先行してしまうかもしれません。災害発生時に何をしていたのか分からない方も多いのではないのでしょうか。

自然災害はいつ、どこで発生するかわかりません。しかし、災害が発生する前に準備しておくことや自分たちの住んでいる町の危険箇所について、子どもたち自身が考えて話し合う機会をつくるのが、防災の第一歩として重要であると考えています。

そのような中、この教材は、専門的な部分はスライドに埋め込まれた音声データを用いて説明を行い、先生方には子どもたちとの対話を重視して、子どもたちの議論が活発になるようコントロールしていただくなど役割分担を行うことにより、主体的・対話的な深い学びが行えるのではないかと考えています。

また、アクティブラーニングの要素を取り入れ、問いに対して自ら考え、発表し、他者の意見を聞くことにより新しい気づきが生まれる防災について学習するための基礎的な部分として作成しました。

災害は毎年どこかで発生しています。ニュースを見聞きしたときなどに、災害を自分のこととして考える「きっかけ」となることを期待しています。

2019年5月

【コンテンツ作成の目的】

『自分の命を守る』ための正しい知識を持ってもらい、もしもの時のことを考える機会となることを目的にしています。

『防災』について考えてみよう！

1 概要

時間：45分

対象：小学生

人数：1クラス（30人～40人）程度

※ 気付きを促すため発表する機会を設けています。人数に応じて、グループワークで班の意見としてまとめ、発表させるなど発表する場の調整をお願いします。

2 目的

災害（大雨・地震・津波など）が発生したときに「どのようなことが起るか」また、その起ることに対して、「どのような準備をおこなったらよいか」などを考え、発表し、他者の発表を聞いて、新しい気付きを促すと共に、自らの判断で自分を守るための行動がとれるような知識や意識を育んでもらう事を目的としています。

3 目標

- ①自分の命は自分で守るという姿勢が大切であること。（自助）
- ②災害は防げないが、軽減することができること。（減災）
- ③いざというときに、どのようなことを行うか家族と話し合っておくこと。
- ④もしものに備え、日ごろから準備を行うこと。

留意事項

1 防災教室の難易度

このコンテンツは、小学校4年生程度から実施できるように作成してあります。また、ワーク①および②の作業用に学習プリントを用意しています。

さらに、振り返り資料として資料集を用意し、理解をさらに深めるのに効果的な事項をまとめました。必要に応じて資料の追加や取りまとめの参考にしてください。

2 ワークの進め方

ワークの時間では、主体的な話し合いとなるように、自由な発想を尊重してください。また、クラスの雰囲気に合わせて、個別で考える場合や、グループで話し合わせるなど柔軟に行っていただければと思います。

意見が出にくいようであれば、他の人と相談させたり、ヒントを出して説明を補足し議論が円滑にできるよう手伝ってください。

3 発表時のポイント

各班の発表は、褒めるべき行動に注目し、司会はそのような行動を褒めることを心がけてください。基本的な考え方は、本編にも記述していますが、ワーク①では、大雨が降り続くとどのようなこと（災害）が起こりそうか、ワーク②では、危険を避けるためにどのようなことができるかを考えてもらいます。批判するのではなく、参加者全員の検討課題として位置づけていきますが、危険と判断されそうな回答の場合は、全体の振り返りとして、議論を深めるなど工夫を行ってください。

4 コンテンツの利用について

このコンテンツは、先生方が防災教室を実施するために作成しています。

5 映像・イラスト等について

このコンテンツでは、災害の動画や被害写真など使用し、子どもたちにとって災害をイメージしやすいように作成しており、教育的な効果を勘案し利用しています。

特に、飯塚市内で発生した災害やハザードマップについては、校区内で発生したものや、居住地域のものを利用することにより、より災害を身近に捕らえることが可能になると思います。

準備するもの

特に必要はありませんが、以下のようなものがあると、災害のイメージや振り返りなど授業の進行が行いやすくなります。

- 学習シート（P16～P17に掲載）
- 浸水ハザードマップ（入手先：各自治体HPを参照）
- 土砂災害ハザードマップ（入手先：各自治体HPを参照）
- 災害の写真（九州地方整備局・国土地理院・消防庁などのHPを参照）

準備するもの



ハザードマップ

防災について考えてみよう！！（大編） - 学習シート -

ねん くみ なまえ

① 大雨がずっと、どんなことが起こりそうかな？

② 大雨の災害にあわないために、どんなことができるかな？

（ゆりかえり）

☐ まわりに「あぶない場所」がないか探してみよう！

☐ 「もしも」の時に、おうちの人と話してみよう！

☐ 自分のことは、自分で守れるようになろう！

-16-

学習シート

**『防災』について
考えてみよう！！**

(大雨編)

－ 授業進行 －

イントロダクション

約3分間



（スライド1～2）

授業に関する導入部分です。

この時間で、「めあて」などを伝えます。

ワークの時間① 約5分間



（スライド3～4）

ワークの時間①への導入です。

付属の学習シートなどを利用し、子どもたちには、『大雨が降り続いたらどうなるか？』を3分程度、考えてもらいます。

クラスの雰囲気に合わせて、グループ討議でも、個別で意見を考えても良いです。

また、考える時間（3分）は、キッチンタイマーなどを活用し、時間の管理をお願いします。先生方は活動状況に応じて子どもたちのフォローをお願いします。

（スライド5）

ワークの時間が終わったら、2分程度、考えた結果や話し合った結果を発表させます。

発表された内容以外の意見はないかと新たな問いを投げかけ、発言させます。

※ここで設定している時間は目安で設定しています。

子どもたちの発表や雰囲気に合わせて、時間の変更をお願いします。

ワークの時間① 約5分間

■ワークの時間でよくある回答例

- ・ 川が溢れる
- ・ 洪水が起る
- ・ 道が川のようになる
- ・ 家が流される
- ・ 山が崩れる
- ・ 土砂が流れてくる
- ・ 家が水につかる
- ・ 雷が鳴る
- ・ 車が動かなくなる（水没）
- ・ 避難所に行けなくなる
- ・ 側溝があふれる

■稀にある回答例

- ・ マンホールから水がでてくる（蓋が外れる）
⇒大雨が降ると下水管などは流入する雨水で一杯になり、空気がマンホールの穴の中で圧縮され、鉄蓋を吹き飛ばしたり、圧力により隙間から水が噴出したりします。
- ・ 停電する
⇒土砂災害や洪水などにより電柱が倒壊し、送電されない場合や、変電所（中継所）の被災などの場合に停電します。
- ・ 携帯が繋がらなくなる
⇒利用者が連絡を取り合うため、回線が集中してつながりにくくなったり、中継所の被災などの場合にはつながらなくなったりします。（一般家庭用の電話も同じ）
緊急時で電話を使用する場合は、公衆電話を利用するとつながりやすいようです。
- ・ 川の堤防やダムが決壊する
⇒大雨により水位が上昇し、川の堤防が破堤する場合があります。
また、ダムは決壊しないよう水量調整を行っていますが、緊急時には、川の水が増水するのを承知の上で、決壊を防ぐために放流することがあります。緊急放流される場合は、あらかじめサイレンなどにより警鐘が行われます。

ワークの時間① 約5分間



（スライド6）

子どもたちから、さまざまな回答を引き出しているかと思いますが、例として、このようなことが挙げられることを確認します。

（スライド7）

実際に災害時の写真を紹介し、災害は身近な場所に潜んでいることを認識させます。

ワークの時間② 約5分間



（スライド8）

2回目のワークの時間です。

今度は、子どもたちに『大雨災害を防ぐためにできること』として考えてもらいます。時間も1回目と同じ3分程度、子どもたちに考えてもらいますが、今回は少し子どもたちに想像を膨らませてもらう必要があります。（災害のイメージがあまり無いかもしれませんので）

時間も1回目と同じように時間の管理をお願いします。活動状況に応じて子どもたちのフォローをお願いします。

意見が出にくいようでしたら、先ほどの災害の写真や映像を思い出しながら、どのようなことが行えそうかを考えてもらいます。

（スライド9）

その後、2分程度、考えた結果や話し合った結果を発表させます。発表された内容以外の意見はないかと新たな問いを投げかけ、発言を促します。

※ここで設定している時間は目安で設定しています。

子どもたちの発表や雰囲気に合わせて、時間の変更をお願いします。

ワークの時間② 約5分間

■ワークの時間でよくある回答例

- ・避難場所に逃げる
- ・非常袋を用意しておく
- ・2階に逃げる
- ・ハザードマップを確認する

■稀にある回答例

- ・高いところに住んでいる人と仲良くする
⇒マンションなど高い建物の場合、避難場所に行かず建物の上のほうに逃げることも重要です。（垂直避難）
- ・運動靴を用意しておく。
⇒浸水している場所を通して避難場所に向かう場合は、長靴やサンダルではなく運動靴を履いて逃げるようにしましょう。
サンダルでは水の流れて脱げたり、長靴の中に水が入ったりして避難がし辛くなります。
- ・カッパを準備しておく
⇒不測の事態に備えて、手には余計なものを持たないことも重要です。また、カッパがあるからといって傘は置いていくことはせずに、傘を杖替わりに使用して、避難場所に向かいましょう。
傘を杖替わりにすることにより、マンホールの穴へ落ちたり、縁石につまづいたりすることを防ぐことができます。

重要

伝えたいこと：

大雨のとき、川や側溝など危険な場所には近づかない！

気象庁が発表する情報を知る 約5分間



(スライド10)

発表してもらった内容について、振り返りを行います。

まとめ 約2分間



（スライド11～12）

授業のまとめを行います。

子どもたちにとって、学校にいれば先生が、家にいれば親がいるかもしれませんが、四六時中、子どもたちの周囲に守ってくれる大人がいるとは限りません。このため、もしもの時は、自らの判断により、自分の命を守るようにトレーニングしておく必要があります。

（自助）

日ごろから、もしもの時を考え、もしもの備えとして、家や学校の周辺で危険な場所はないか考えてみる。（通学路の防災・防犯マップなど）避難場所を知っておき、実際に歩いてみる。（普段の時と違い、災害時は時間がかかることも忘れずに）

地域の防災訓練があれば、参加して、近隣に住んでいる人と仲良くなりましょう。（共助）

また、大雨のときは、最新の気象情報を利用するとともに、危険から逃げる勇気をもつことも大事です。そのためには、普段から、どのような情報があるのか、また、その見かたはどのように見たらよいのか、知っておくことが大事です。

重要

災害は、いつか必ずやってきます。

もしものに備え、正しい知識と判断を行い、行動に移しましょう。そして、「自分は大丈夫」と思わないようにしましょう！

全体の振り返り・まとめ

約10分間

※ここに記載されている事項は、参考事項です。

1 ワーク内容の振り返り

ワークの時間で、さまざまな意見があったと思います。全体を見通して、全体的な気付きになるように行っていただければと思います。

2 気象庁が発表する情報

気象庁は予測資料をもとに、警報や注意報、気象情報、土砂災害警戒情報などを発表し、観測結果をもとに記録的短時間大雨情報などを発表しています。災害の発生リスクに応じて段階的に情報を出していますので、日ごろから情報の見方や入手方法などを確認しておくとい良いでしょう。

天気予報や雨雲の位置などは、気象庁HPにて公開されています。天気予報を見て、イベントごとの算段やレーダー画像をみて、子どもたちの下校タイミングを図るなど有効に利用できると思います。

また、気象庁が発表する情報を元に、地方自治体は体制を整えますので、学校でも避難所開設の準備、立ち入り制限区域の設定、非常参集などにも活用できます。

3 ハザードマップ

ハザードマップは、自治体が作成し、戸別に配布していたり、自治体の本所や支所などの窓口で配布されている場合もあります。また、自治体のHPでも公開されている場合が多いので、自分たちが住む地域にどのような災害リスクがあり、災害に応じた避難場所はどこかなど普段から確認しておくとい良いでしょう。

4 自助・共助について

大規模災害が発生した場合、公的機関の支援が入るまで時間がかかることから、まずは自分の命を守る（助ける）ことが大前提となります。

そして家族を守る（助ける）、その後、近所を守る（助ける）と言った形で、己（個）から地域コミュニティへ広がり、自助・共助の関係が生まれます。また、子どもたちが率先した行動（避難行動）をとると、必然的に大人も行動を開始し、必然的に多数の避難行動につながった例もあります。

**防災について
考えてみよう！！
（大雨編）
－ 学習シート －**

ねん	くみ	なまえ	
----	----	-----	--

1 大雨がつづく、どんなことがおこりそうかな？

--

2 大雨の災害にあわないために、どんなことができるかな？

--

（ふりかえり）

- ☐ まわりに「あぶない場所」がないか探してみよう！
- ☐ 「もしも」の時について、おうちの人と話してみよう！
- ☐ 自分のことは、自分で守れるようになろう！

ねん	くみ	なまえ	
----	----	-----	--

1 大雨が降ったとき、どんな災害があったかな？

--

2 大雨が降る前に、どんなことができるかな？

--

（ふりかえり）

- ☐ まわりに「あぶない場所」がないか探してみよう！
- ☐ 「もしも」の時について、おうちの人と話してみよう！
- ☐ 自分のことは、自分で守れるようになろう！



【雷の実験】

木に落雷した雷がマネキンに移動しているのがわかります。このため、木のそばで雨宿りするのは危険だというのがわかります。

※雷が近くで鳴っているときは、頑丈な建物の中に入って、遠ざかるのを待ちましょう。

